

小矢部市まちづくり研究会

研究報告書

(平成17～18年度)

平成19年2月

目 次

はじめに

第1章 まちづくり研究会の内容

1. まちづくり研究会の設立経緯	1
2. まちづくりの現状と課題	
(1) まちづくり	1
(2) まちづくりの現状	2
(3) 定まらないまちづくりのテーマ	2
(4) 小矢部市の誇れるもの	2
(5) まちづくり研究会が考えるこれからのまちづくり (子供たちが10年後も住みたいと思うまちの創造)	2
3. まちづくり研究会の体制	3

第2章 研究会班別の提案

平成17年度研究概要	4
平成17年度研究内容	5
平成18年度研究概要	16
平成18年度研究内容	
第1班 「小矢部まちづくり役場の創設について」	17
第2班 「“道”からはじまるまちづくり」	21
第3班 「ふるさと体験と里山再生」	33
第4班 「農業生産を活かしたまちづくりについて」	42
ま と め	48

参考資料 まちづくり研究会活動経過

1. 平成17年度活動経過	49
2. 平成18年度活動経過	50
3. 先進地現地調査	51

はじめに

暮らしやすく、ずっと住み続けたいまち『小矢部市』の実現は、すべての市民共通の願いです。

『子育てしやすい』、『高齢者が安心して暮らせる』、『緑豊かで文化の薫りが高い』、『自然にやさしく安全で住みよい』、『にぎわいと活力あふれる』まちとは、どんなまちなのか。また、中心市街地活性化策、桜町遺跡の活用策、少子高齢化の対応策等はいかにあるべきか、今、小矢部市はこのような様々な課題を抱えています。

こうした中、全国的にも、私たちを取り巻く社会背景の中から生まれる様々な市民のニーズに対し、行政だけでなく市民と行政が協力して、より良いまちづくりを進めていこうという意識が高まっています。

これまでは、「まちづくりは行政が担うもの」という考え方が主流でした。しかし、これらの市民の価値観に対応するには限界があることや、地方分権の流れ等を受け、新たな行財政運営の展開が求められています。

これからは、市民と行政による『協働』という手法を用い、活気ある住みよいまちづくりを実現していく必要があります。

小矢部市では、市民と行政による『協働』をテーマに「まちづくり研究会」を設立し、公募等により市民6名、市職員8名の計14名が委員に委嘱されました。

研究会では、1年目は2班に、2年目は4班にそれぞれ別れ、班毎に研究テーマを設定し研究に取り組んできました。また、現地視察、先進地視察を実施するとともに、意見の偏りがないように全体会議を開催し、さらに意見交換を重ね、委員のまちづくりにおける意識の共有を図りながら取り組んできました。

この報告書は、当研究会での様々なアイデアや意見をとりまとめたものです。今後、この提案を小矢部市のまちづくりに活かしていただき、市民と行政が一緒になって、自分たちのまちを活気ある住みよいまちにしていきたいと思えます。